南海放送

活動名	「放送局の思いは私たちに届いているか」 愛大附属小メディアリテラシー授業
実施期間	令和 5 年 10 月～令和 5 年 11 月
実施回数	学校 2 回・社内見学時 2 回

【実施学校】　愛媛大学教育学部附属小学校

【事業実施の成果・課題】

今回は愛大附属小の品川教諭が大変熱心に協力してくださり、放送局見学の前に「情報とは何か」「メディアはどのようにして情報を手に入れているのか」「なぜ、メディアは私たちに情報を伝えるのか」というテーマで授業を実施。子どもたちは「放送局の人は、どのような思いで情報を集めたり、視聴者に伝えたりしているのか。また、何のためにニュースを作っているのか。」という学習課題をもった上で、私たちのメディアリテラシー授業にのぞんでくれた。
ラジオ出演というサプライズからスタートしたことで、放送を身近なものとして感じてもらえたようだ。その後、質疑応答の回数を重ねたことで、各回を非常に内容の濃い授業とすることができ、子どもたちに「情報の受け手の判断の重要さ」を実感してもらえた。

【事業担当者の感想】

毎回の授業で時間が足りなくなるくらい、子どもたちは大変熱心に質問をぶつけてきてくれた。それに応えようと、番組出演や多様な VTR の視聴などを用意してのぞんだところ、想像以上に自分事としてとらえてくれた。民教協制作の VTR は笑いを交えながら楽しく視聴していたが、速報性や公共性といったポイントについてしっかり理解していた。その授業の様子のニュース映像について考えたことで、それぞれの立場によって受け取り方が違うという発見につながり、最終的に「放送局が使命感を持って責任ある情報を送り出している事」と「情報の受け手が正しい判断力を持つことの重要性」をしっかりと学んでくれた。また、授業では「私たちはこの授業を受けたからニュース番組にも興味が出たし、放送局についても考えることができた。それが無ければ考えたことはなかった。」という意見が多く聞かれ、若い世代への情報発信やこうした取組みが非常に重要なことを痛感させられた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜品川　崇教諭＞
南海放送局内見学では、子どもたちは目を輝かせていました。また、DVD で視聴したニュース番組の作り方の 4 つの視点は、子どもたちにかなりインパクトを与えたようです。また、その後の質問タイムでは、DVD の中身と照らし合わせて、子どもだけでなく、私も非常に勉強になりました。子どもは、佐伯さんの仕事、視聴者に対する思い、災害報道への思い、いろいろなものをつかみ取ったようです。特に「風化」の話を取り上げてくださったことは、ほとんどの子どもが、「放送」の役割について、あらためて考えることができたのではないかと思います。また、授業の様子を放送した NEWS　CH.4 も

拝見し、子どもたちは、短い時間の中でどのように授業のことを伝えたのか、実感したのではないかと思います。子どもたちのために、佐伯さんの思いを熱く語ってくださり、また、今後の学びにつながるキーワードもたくさんいただきました。

＜子どもたちの感想＞

・はじめて放送局の中に入り、とても広いと感じました。たくさん人がいて、一つの番組に 5 人や 6 人などの人が協力して記事を書いたり調べたり、カメラマンやディレクターなどで一つの番組になっていておもしろいと思いました。

・災害の取材の時は被災者の気持ちを十分に考えた上で取材を行っていると説明を聞いて、とても大事なことだなと思いました。

・見学を通して、インターネットとかで「うそ」の情報を流している人にだまされないように、ちゃんとこんきょを持った人たちの正しい情報を聞くようにということが伝えたかったのかなと思いました。

・私はニュースやラジオなど見たり聞いたりすることがありません。なぜなら私には関係ないと思ったからです。でも今回の見学で感じた、心に残ったことがあります。「見ている人を守りたい、助けたい」という思いがありますというのを聞いて、心がかわりました。とっても心がいたくなったり、あつくなったりしました。

・教科書には公正、公平しか書いてなかったけど、速報性、正確性、公平性、公共性を大事にしてニュースを流していることを知りました。

・アナウンサーは情報を伝える以外にも、へん集やさつえいなど 8 こくらいの仕事を 1 人でこなしていました。

・これからニュースを見る時は、情報の背景にも目を向けたいと思います。